

2016年9月27日

リコー、米国 IDC 社のドキュメントワークフローサービス分野評価レポートで 「リーダー」を獲得 ～ 顧客起点に立ち、均一の提供品質を持った、 グローバルでのサービス戦略展開が評価される ～

株式会社リコー(社長執行役員:三浦善司)は、IT 専門調査会社 IDC が発行した最新の調査報告書「IDC MarketScape: Worldwide Document Workflow Services Hardcopy 2016 Vendor Assessment」*1および「Vendor Snapshot 2016: Ricoh on Document Workflow Services」*2の中で、ドキュメントワークフローサービスの分野で世界的な「リーダー」として評価されました。

これらのレポートでは、紙およびデジタルのドキュメント管理に関する顧客の課題に対して、リコーがグローバルで提供しているソリューションについて大きく取り上げています。また、マネージド・プリント・サービス領域を拡張し進化させ続けている点で、リコーは IDC MarketScape のドキュメントワークフローサービス分野で6年連続「リーダー」と評価されています。

MarketScape レポートでは、「リコーは付加価値のあるサービスを提供することに注力しており、そのソリューション提供の取り組みは、デジタル化の進化におけるさまざまな段階で、顧客を十分に満足させるのに必要な柔軟性を備えています。」とレポートに記載されており、このリコーのお客様視点のアプローチが、グローバルで均一なサービス提供を可能にしています。

Vendor Snapshot レポートでは、より詳細にリコーの取り組みが紹介されています。特に、リコーのサービス主導型の取り組みと、グローバル顧客に対するポートフォリオ標準化を評価しています。リコーがお客様視点のアプローチの一環として、顧客の環境、プロセス、課題を理解することを重要視していることにも注目しています。

IDC アナリストによると、「リコーの戦略を見ると、確立されたハードウェアビジネスに隣接した幅広いソリューションとサービスを通じて、マーケットのワークフローニーズを満たそうとするリコーの取り組みがわかります。リコーは、その見識と専門知識を活かして、様々な角度から顧客の課題を見いだし、特定し、対処しています。特に、リコーの幅広いポートフォリオが顧客の多種多様なニーズへの対応を可能にしています。」と、評価しています。

リコーは、変化するビジネス環境の中で、これからもお客様の課題を総合的かつ効率的に解決するために、グローバルにサービス提供を続けます。

■ IDC MarketScape について

IDC MarketScape は、特定市場における ICT サプライヤーの競争力の適応度を把握できるベンダー分析モデルです。調査方法には、定量/定性的な基準に基づいた厳密な採点手法を用いています。調査結果は当該市場における各ベンダーの位置付けを示す、1つのグラフによって表されます。

*1. “IDC MarketScape: Worldwide Document Workflow Services Hardcopy 2016 Vendor Assessment”
Doc #US40994416, September 2016.

*2. “Vendor Snapshot 2016: Ricoh on Document Workflow Services” Doc US41732616, September 2016.

｜ リコーグループについて ｜

リコーグループは、ドキュメントマネジメントシステム、ITサービス、プロダクションプリントソリューション、ビジュアルコミュニケーションシステム、デジタルカメラ、産業用製品・サービスなどを世界約200の国と地域で提供するグローバル企業です(2016年3月期リコーグループ連結売上は2兆2,090億円)。

創業以来80年にわたり、高い技術力、際立った顧客サービスの提供と、持続可能社会の実現への積極的な取り組みを行ってきました。

想像力の結集で、変革を生み出す。リコーグループは、これからも「*imagine. change.*」でお客様に新しい価値を提供していきます。

より詳しい情報は、こちらをご覧ください。 <http://jp.ricoh.com/>